

# 運転代行、生き残り合戦

山梨県内で、ドライバーに代わる運転代行業者が増加し、激しい価格競争が続いている。飲食運轉の厳罰化や参入障壁の低さから、認定制度が始まった2002年と比べ、業者数は5倍余りに拡大。一方、初乗り(2〜3キ)料金は10年前の半額程度に。利用客の紹介を受ける飲食店に対する「キャッシュバック」競争もあり、業者からは「やりくりは限界」との声が漏れる。1日には県内業者を組織化した業界団体が発足。経営環境の改善へ連携強化を模索する動きが出始めた。

〈渡辺浩人〉

## 県内 経営改善へ連携も

### 初乗り半額／飲食店に紹介料



運転代行業者を都道府県公安委員会が認定する制度は2002年にスタート。制度開始当初の同年に15社だった業者数は、今年5月末時点で77業者に増えた。13年間で認定された業者数は144社。だが半数近い67社が廃業している。

複数の業者によると、個人で代行業を始める人も多く、初期投資が比較的少ないため、事業を始めて廃業するサイクルが他業種と比べ早いという。ただ相次ぐ新規参入で、セレモニーホールの駐車場などで、利用客を待つ代行業者。業界は厳しい価格競争が続いている

価格競争が激化。02年当時は初乗り(2〜3キ)が2千円〜2500円程度だったのに対し、現在は千円〜1300円程度が主流。千円を切る業者もあるという。

また、客の紹介を受けた飲食店に「キャッシュバック」する価格の競争もある。運転代行は飲食店を通じて配車するケースが多く、客を紹介された回数に応じて飲食店に紹介料を支払い、優先的な紹介を受けている業者もいるという。

甲府市周辺を中心に営業している運転代行業者の男性は「利用価格は下がる一方で、飲食店に支払う紹介料も負担になっている。さらに燃料費もかさんでいて、利益はほとんどないのが実情だ」と険しい表情をみせる。

業界内では「白タク」と呼ばれる無免許での業務のほか、運転代行業で禁止されている客を随伴車に乗せて客の車まで輸送する「A・B間輸送」などの問題も抱えたままだ。

こうした状況を踏まえ、国中地域の業者27社は1日、全国運転代行協会山梨県支部運転代行協力会を設立。今後、参入障壁の拡大や違法業者への取り締まりなど行政に陳情するなどして、経営環境の改善を図るといふ。

初代会長に就任した甲府運転代行サービスの田中総明専務は「価格競争が激化する中で消費税増税もあり、多くの業者が厳しい経営を続けている。違法業者の排除や安全運転の促進に業界一丸となって取り組みたい」と話している。

昭和町内